

# 令和5年度教育未来委員会行政視察報告書

教育未来委員会委員長 渡辺 忍

【視察日程】 令和6年1月22日(月)

## 【視察委員】

委員長 渡辺 忍

副委員長 岳田 雄亮

委員 石川 美香、黒澤 和泉、大平 真弘、安喰 初美、  
岩井 雅夫、段木 和彦、森山 和博、石井 茂隆

## 【視察地及び調査事項】

### 1 市立花園中学校、市立小倉小学校

・ステップルームティーチャー設置校の取組と課題について

### 2 まなびスペースCOCOCARA

・民間フリースクールの取組と課題、行政等との連携について

## 【視察報告】

### 1 市立花園中学校、市立小倉小学校

調査目的	本市では不登校支援の一つとして、様々な要因で教室に入ることができず、教室以外の別室(ステップルーム等)に登校する児童生徒に対して支援を行う専任の支援員として、ステップルームティーチャーを令和5年4月から市立小学校に2校、市立中学校に2校配置しており、その活動状況や子供たちの様子を把握する。
視察概要	<p><b>1 調査項目</b> ステップルームティーチャー設置校の取組と課題について</p> <p><b>2 対応者</b></p> <p>(1) 市立花園中学校 校長、教頭、ステップルームティーチャー、教育支援課指導主事</p> <p>(2) 市立小倉小学校 校長、教頭、ステップルームティーチャー、教育支援課指導主事</p> <p><b>3 主な質疑応答(□:質疑、■:答弁)</b></p> <p>(1) 市立花園中学校</p> <p>□ ステップルームに登校した生徒は、この教室でオンラインで授業を受けるのか、もしくは自習をするのか。 ■ オンラインで授業を受けるも受けないも自由。来ているが自習するという子もいる。数学と英語だけはオンラインで受けたいなどそれぞれで、自分のタイミングで教室に行くことも自由である。</p> <p>□ 勉強ではなく、本を読んだりする子もいるのか。 ■ いる。まずはここに来るまでが大きな一歩なので、短時間でも過ごしてもらうために自分が持ってきた本を読んだり、ステップルームでも本を用意している。</p> <p>□ ステップルームティーチャーの役割として、子供に勉強を教えたり、どの様に関わっているのか伺う。 ■ 子供から質問があつて教えたりもするし、まずは私がいつでもステップルームティーチャーとしてここにいるよということで、何かあつたら何でも言つてと伝えている。そこから担任の先生や教科担任の先生とつながり、課題の相談などをしている。また、担任や空いている先生などもステップルームを見に来ている。</p> <p>□ 給食はここで食べるのか。 ■ ここで食べる子もいるし、教室で食べる子もいる。</p>

	<p><input type="checkbox"/> 先生方と保護者とのコミュニケーションや、地域への周知などはどのようになっているか。</p> <p>■ 学校だより、教育だよりを通して周知を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> ステップルームの造りについて伺いたい。</p> <p>■ 学校は2011年に竣工しており、部屋も当初からステップルームを想定して造られている。生徒が昇降口から他の子たちの目に触れないでステップルームまで来ることができるようになっているが、ほかの学校では空き教室を利用しているなど、同じようにはいかない。</p> <p><input type="checkbox"/> ステップルームティーチャーが設置される前からステップルームを行っていたのか。</p> <p>■ 今年度から専属のステップルームティーチャーが配置されたが、それまでは入れ代わり立ち代わり先生方が来て行っていた。</p> <p>現在、子供たちも、常に同じ先生がいるということは安心感につながっているし、以前は出席を自分で職員室まで言いに行かなければならなかったが、今は同じ先生がいてくれるのでその必要がなくなり、登校のハードルが下がった。教育は人であるため、常駐の先生を置いてくれたのはありがたい。</p> <p>ただ、会計年度任用職員であり午後3時ごろまでしかいられないので、遅く来た子供を見ることができないという課題はある。</p> <p><input type="checkbox"/> 何人ぐらいの生徒が来ているのか。</p> <p>■ よく来るのが15人ぐらいで、あとは単発で来る子もいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 個別に先生がついて教えてあげられる時間もあるか。</p> <p>■ 常駐している自分が教えることもあるし、担当の先生が教えてくれる時もある。</p> <p><input type="checkbox"/> 普通教室に戻れる生徒はいるか</p> <p>■ 多くはないが、戻れる生徒はいる。タイミングとしては年度や学期の切り替わり、長期休暇後などが多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 本人、保護者から提出してもらったサポートシートは学校独自のものか。</p> <p>■ そのとおりである。他の学校のを参考に作成した。ステップルームを利用してもらった最初に行う担任、保護者、生徒の三者面談の際に活用している。</p> <p>ただ、そういった段階を踏まなくても、一時的に教室にいたことが苦しいなどの</p>
--	--

際には自由に利用できる。

- 昔の保健室登校のようなことを担っているのか。
- その役割も担っている。ただ、保健室でないと難しいという子もいる。
  
- コロナ禍でステップルームに来る子が増えたといった印象はあるか。
- それはない。特に変わらない。
  
- 教室内でお話をしている子はいるのか。
- 基本的には授業と同じ考え方になるので、会話は多くない。友達同士でステップルームに登校するというケースはほぼ無く、みんな自分のことをやるといった事が多い。

## (2)市立小倉小学校

- ステップルームに来る子の特性として漠然とした不安感がある子が多いとのことだが、何に不安なのか聞いたことはあるか。
- まず、子供としては説明することが難しい。感覚過敏なところもあるかもしれないが、大勢の中で、いろいろな音や動きが騒がしいなど、そういったところから不安であるとか、発達障害という診断を受けているお子さんも何人かいる。コミュニケーションをとること自体が心配であるといったケースもある。
  
- ステップルームに通うようになるまでの段階というか、いつでも誰でもこちらに来ていいのか、保護者の了解が必要であるのかなど伺いたい。
- 昨年度から保健室登校が多かったため、そのままステップルームに移行した子がいる。  
難しいのが、ある意味子供たちにとって、自由なペースでできるという面で快適な環境に見えてしまうところもあるため、保護者の方と話をして慎重に状況を伝えたり、担任も教室が辛そうだからと言ってすぐにステップルームにというわけではなく、保健師と連携するなどいったんできることを探して、やはりステップルームの方がいいのかなという時に紹介をしている。
  
- 一日の中で普通教室と行ったり来たりする場合もあるか。
- ほとんど普通教室に行けているが週に1・2時間だけこちらで過ごす子供もいるし、授業によって行ったりする子供もおり、様々である。
  
- 先に視察した中学校ではサポートシートがあって、保護者や本人のことを伝え

	<p>ていたが、どのような段階を踏んでそういった話を保護者と進めていくのか。</p> <p>■ サポートシートは本校ではないが、小学校の場合は直接コミュニケーションをとりながらというのが理にかなっていると思う。</p> <p>□ 保護者からは利用にあたってどのような質問があるか。</p> <p>■ 今までなかったものなので、どのような場所なのかといった基本的な質問が多い。</p> <p>□ 子供たちに自尊心や自己肯定感はあるか。</p> <p>■ できない自分を見られたくないといった事がある。自信がない子は多い。</p> <p>□ ステップルームの先生同士の研修や他の学校との交流で事例を聞いたりするといった場所はあるか。</p> <p>■ 教育支援課で定期的に研修や情報交換会をやっている。</p> <p>□ ステップルームに来る子が20人ぐらいいるとのことだが、ステップルームに来ている子以外に不登校はいないのか。</p> <p>■ ステップルームに来ない不登校の子もいる。</p> <p>□ 全国的な問題ではあるが、どうして不登校が増加していると考えるか。</p> <p>■ 特性があって学校に来られない子もいるし、コロナで休校があって、リズムが崩れてしまったり家にいる方が楽だと思って学校に行かなくなった子供がいるのではと考えている。</p> <p>□ 親と一緒にあってなるべく学校に来てもらうように働きかけるというのは、良くないのか。</p> <p>■ 昇降口で泣いてた子供が笑顔でステップルームに来るようになって、安心してくれる保護者は多い。ただ、担任が教室まで連れて行こうと声をかけるなどすると、ステップルームに行くことで精いっぱいだからそれ以上声をかけないでくれということもある。そのあたりは保護者と担任、ステップルームティーチャーで共通理解を図りどのように声をかけていくのか留意することが必要となるが、1人1人違うので対応は大変である。</p> <p>□ 小学校で周りの生徒より進みすぎてしまって、授業がつまらなく苦痛であるため、カリキュラム上そこにいたくないというパターンもあると聞いているが、そういったことはあるか。</p>
--	--

■ 本校においては聞いていない。

□ 不登校の子は、全校で何人いるか。

■ 不登校というか、30日以上長期欠席ということで該当するお子さんは22名。病欠も含めて欠席が多いお子さんというところで、全然来ていないというわけではない。

#### 4 現地調査の様子



【市立花園中学校ステップルーム】



【市立小倉小学校ステップルーム】

<p>主な 委員所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ステップルームティーチャーが専属で配置され、常に同じ先生がいることにより子供たちが安心して過ごすことができている。 また、以前は出席を子供たち自身が職員室まで言いに行かなければならなかったが、現在は常駐のステップルームティーチャーが出席報告をするようになり、学校へ来るハードルが下がっていると感じた。</li> <li>○ 先生方からのステップルームティーチャーへの信頼感があるように思えた。</li> <li>○ 小倉小学校では、教室での子供たちの様子が落ち着いており、居場所づくりの大切さを感じた。ステップルームティーチャーの設置を進めるべきである。</li> <li>○ 花園中学校では積極的にステップルームを活用している一方、小倉小学校では子供の様子から保護者と面談して慎重に決定している様子があり、年齢による対応の違いを感じた。</li> <li>○ 花園中学校ではサポートシートを活用して生徒の思いや様子を保護者、先生との三者面談で共有できており、他の学校でも生かしてほしい。 一方、小学校では子供が気持ちなどを言語化することが難しく、保護者との丁寧な情報共有など信頼される人間性がとても重要であると感じた。</li> <li>○ ステップルームの部屋を低学年と高学年を分けた方が良いのではないか。学校に対するハード面の補助が必要ではないか。</li> <li>○ ステップルームティーチャーは子供たちの一番近いところにいるのだから、教室に行くことができない理由をしっかりと調査したほうがよいのではないか。</li> <li>○ 花園中学校は、比較的新しい校舎ということもあり、ステップルームに通う生徒に配慮された教室や教室までの動線が整備されており、不登校生徒にとって学校へ行く第1歩が踏み出しやすいように感じた。</li> <li>○ 学校ごとにステップルーム導入の経緯がソフト面、ハード面などいろいろな制約があり、一律にステップルーム及びステップルームティーチャー配置ができるものではないことがわかった。</li> <li>○ フリースクールやライトポートは拠点も少なく、通学距離や料金面でハードルが少し高いことから、自宅から近く登校しやすい学校内にステップルームがあること</li> </ul>
--------------------	--

はメリットが多いと感じた。

- 特に小学校においては、休み時間には友達と遊んだりする場合もあり、校内にステップルームがあることのメリットを感じる。
- 小倉小学校でも取組効果があると感じるものの、近隣の中学校では同様の取組がないため、継続性が担保されておらず不安を感じるとの声があり、今後、小中での連携等については検討が必要と考える。
- ステップルームがある千葉市内小中学校の状況を確認したいと考えた。
- 小学校にステップルームが設置されている学区の中学校には、支援を継続できるように中学校でもステップルームを設置することが必要ではないか。
- 経験豊富な先生が配置されていることに安心したが、配置時間数が十分でなかったり、小学校では学年に応じた対応が求められていることから、職員の配置を増やしていく必要があると感じた。
- 花園中学校では、ステップルームを使用したいと感じたらすぐに利用できる状態であり、生徒にとってハードルが下がり、不登校防止につながっているのではないかと感じた。  
このような来やすい居場所であるという位置づけを徹底することで、子供たちが教室に戻れるまでの気持ちを持てるような準備ができる場所になっているように感じた。ステップルームを新たに設置する学校は、この考えを全ての教員と共有すべきであると思う。
- 小倉小学校ではできるだけ教室にとどまる努力をしており、どうしてもという場合だけステップルームを利用させるという方針であった。特に小学生においてはステップルームの居心地のよさをアピールすると利用者が増えてしまうのではないかとのことであったが、教室での授業が楽しい、教室の居心地が良いとなるような改革を同時に行う必要を感じた。
- 普通教室に戻れるかどうかは大事かもしれないが、生徒には居場所があることが大切であると思う。子供の意思を大切に、その子に合った環境や雰囲気を作ることが必要である。



## 2 まなびスペースCOCOCARA

調査目的	不登校支援として学校外での居場所、学びの場の確保が必要であり、学校、教育委員会等公的機関とフリースクール等の民間施設・団体との連携の推進が求められていることから、実際に本市で活動している、まなびスペースCOCOCARAを調査し、子供たちの過ごし方や活動状況、行政等との連携について把握する。
視察概要	<p><b>1 調査項目</b> 民間フリースクールの取組と課題、行政等との連携について</p> <p><b>2 対応者</b> NPO法人COCO. NET 理事長 古山教育研究所 代表</p> <p><b>3 主な質疑応答(□:質疑、■:答弁)</b></p> <p>□ いろいろなケースがあると思うが、傷ついてしまっている子供たちがたくさんいるということは、何か原因があると思われるか。</p> <p>■ 私の研究では、起立性調節障害。朝起きられない、低血圧。最近新しい自律神経の理論ができていて、大きな意味での自律神経失調症だと捉えている。</p> <div data-bbox="879 869 1337 1211" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【視察の様子】</p> <p>ここにきている子供たちでは、大体統計的に半分ぐらいの子供にそういった症状が出ており、あっという間に元気がなくなっていってしまう。絶対に回復するが、これを戻すには年単位の時間がかかることを覚悟してほしい。症状としては朝起きられない、腹痛、頭痛の身体症状がある、不調の理由を聞いてもわからない、ゲームしかやらない、人と会うのを極端に怖がる。こういった症状が出てくると典型的な不登校であると判断し、とにかく刺激しない時期を作り、心理的、肉体的に数か月単位で温める。それをちゃんとやっていると、子供たちが外に出てくるようになり、フリースクールに来たりするようになるが、コミュニケーションが取れない。来るだけで精一杯という状態。そこから元気になっていくにはまた時間が必要である。</p> <p>□ その子が不登校になってしまうかというのは分かるのか。誰でも突然そのような状態になり得るのか。</p> <p>■ 私の目から見れば予兆はあるが、普通の人にはわからないと思う。</p>

	<p>□ 例えば外部要因として、友達だとか、先生が何かとか、そういう大きなきっかけというのはあるか。</p> <p>■ はっきりすることもあるが、ない方が多い。その子がはっきり理由を話せるようになるまでが数年スパンであったりすることが多いと思う。</p> <p>□ 先ほど伺った起立性調節障害、朝起きられないとかそういった初期症状というのは大体似通っているのか。</p> <p>■ 似通っている。そして、その時期に家庭内暴力が起こりやすい。親からすると原因もわからずにゲームばかり始める子供に対して、学校に行きなさいなど言い始める。子供も自分でも訳が分からない。親の言うことは正論で、子供は言い訳もできず暴れたり暴言を吐いたりといった事が起こるケースが多い。</p> <p>□ フリースクールとか公教育でないところに予算をつけるための理由付けというのが難しく、何かきっかけがあればいいと思っているが、運営をしていくのにどれくらいの事業費、規模感でやっているのか。</p> <p>この場所を選んだ理由とか今の授業のやり方、こういう風にやるべきであるなどそういった将来展望みたいなものがあれば教えていただきたい。あと、経費のことを絡めて、こういったところを助けてもらいたいということがあれば伺いたい。</p> <p>■ 本当に切実な部分で、通常で行くと今年3月まで持ちこたえられるかどうかといった財政状況にある。最初は年間10万円という本当に小さな団体からスタートを切り、今、この3年で年間300万円の事業費で運営するようになった。うち50万円は千葉市からフリースクール補助金を受けており、主に家賃の補填として使わせていただいている。</p> <p>こういったNPOであったりそうでなくても、小規模な団体は保護者がやむにやまれず立ち上げたというような経営団体も多いのではないかと思うが、そういった団体は人件費を調整弁として運営をして行っているというのが現状で、私たちは来ているスタッフもみんな有資格者であるが、交通費のみのボランティアで運営をしている。</p> <p>実費プラスアルファを通っている子供たちの人数で割ったような、そういう事業として運営をしている。そういう意味では、1人や2人が調子が悪くて来られなくなったりすると収支が逆転してしまい、マイナス収支を抱えたまま運営しているというような実態になる。居場所の提供だけではなく、教育機会の確保ということで最低限の読み書き、算数であったりとか子供の興味、関心に応じた様々な教育プログラムをやらうとすると経費がどんどん高くなってしまふ。そういった状況からして、補助は年間50万円から拡充していただきたい。また、子供たちは、ここのフリースクールだけでは週5日の活動を埋められないことから、他にもフリースクール</p>
--	--

に通っていたり、習い事やカウンセリングに行っている子供もいる。そういったことを考えると家庭に対する支援も必要ではないかと思っている。

また、金額が大きいわけではないので、フリースクールへの直接支援よりも金券で家庭へ直接支援いただいた方が、ぎりぎり運営している法人が事務作業に忙殺され子供との時間が取れないといった事がなく、フリースクール側としても授業料として結果的に受け取ることができることから望ましいと考える。

- 学問の前に道德教育があると思うが、どのように考えているか伺う。
- 言葉で理解させようとしすぎており、軽視されている部分があると思う。例えば思いやりを持ってというのがあれば、成績の悪い子に頑張れと言うだけではなく、ちゃんとその子が取り組める内容でサポートをするなど行動を見せ、人間関係を築いてほしい。
- ここに通っている子供たちは基本的には送り迎えになるのか。申し訳ないが場所としては不便ではないか。
- 100%が送迎となっており、通えないといった事で入所を断念された方もそれなりにいる。
- フリースクールを開設するにあたりこの場所を選んだ理由はこういったものか。
- いろいろなところを見たが、不特定多数の子供が出入りするところにそもそも貸しませんよと不動産屋から言われ、借りることが難しかった。それでもいくつか見た中で、今の場所が価格的に払える範囲であった。補助をいただいているのが50万円で、こちらで家賃が年間86万円かかっている。駅前のテナントはとても借りることができなかった。

ただ、地域の方々が子供たちのことをとても暖かく受け入れてくださって、こちらに借りることができてとてもありがたいと思っている。
- 予算に合わせてカリキュラムを組んでいるという話があったが、やりたいことが膨らんでいった場合どうするのか、理想としてはどのように取り組んでいきたいのか。
- 現状教えてくださる講師が1名ということと、それぞれ年齢が異なるので、本来はその学習に向き合う際にそこに支援に入ってください先生のような方がもう数名いることが理想的で、わからないとなったときにすぐに聞く事のできる学習の環境を整えたいが、ハードルがとても高い。

ほかに財政が整えば、パソコン端末で学習するという機会を提供できるようにIT機器を導入したいのと、親身に子供とコミュニケーションをとってくださるような支援者も確保したいと思っている。

課題もあるが、お金の教育など公教育ではあまり取り組めていないようなテーマを、いち早くフリースクールで取り組むことができているという利点もある。子供たちがやりたいということにちゃんと予算をつけて取り組むことができるというのがフリースクール、オルタナティブな教育の醍醐味とも言える部分だと思う。

□ オンライン上で、バーチャルの世界だとコミュニケーションが取れるという子も多いのではないと思うが、実際にこういったオルタナティブの施設の中で、子供たちはどういったオンラインの活動をしているのか。

■ ここに来ている子供たちに関しては、ここでの人間関係に満たされているように見えるが、外ではディスコードというコミュニケーションアプリを使ってマイクラフを中心にやったりしている。ただ、そういったやり取りはよくあるものの、しょせん人間関係の代わりにはならないという面もある。自分の見る限りでは、使い方ひとつであると思うが、例えばSNS上では喧嘩が起きやすいという説もある。

ここで1日過ごした子供たちが、放課後はバーチャルで集まってゲームをする際、リアルだとうまくコミュニケーションが取れているのに、バーチャルだと喧嘩をする。生身の人間との距離感とバーチャル上でのコミュニケーションが違って、リアルだと問題ないが、バーチャル上だと問題を起こすことがあった。それを、どのようにしたらバーチャル上での問題を減らしていくことができるかリアルの場合で話し合い、問題を起こした子に対してどうやって対話を進めていくか考え、変わってもらえるように説得をしていく。バーチャルとリアルを行き来しながらいい関係ができていったという経験がある。

バーチャルのメリットは当然あり、ものすごい可能性を秘めているが、それだけでは補いきれない人間関係の必要性があるんだろうと思う。そこを行ったり来たりしながら関係を築くことができる仲間がいるということは、その子たちにとって幸運だった面だろうと思う。

□ 親が子供たちの成長を見て安心するというのはすごく大事だと思うが、親と交流する機会はあるのか。

■ NPOの正会員のほとんどが来ている保護者で成り立っているのですが、そういった意味では保護者も一協力者として運営に携わっているが、時間が経ち子供が安定してくると、子供に付きっきりであった保護者も自分の仕事に戻りたい、フリースクールに通うのもお金がかかるため働かなければならないなどの理由で、今NPOの協力者として携われる方が減ってきている部分もある。

あとは、保護者と子供と一緒に味噌づくりをしたりと行事ごとに保護者を呼んだりもする。お母さんに関しては子供にずっと寄り添ってという方がほとんどだが、お父さんに関しては比べると薄い状況であるため、ここ2年間でおやじの会というの

も開いている。

#### 4 現地調査の様子



【まなびスペースCOCOCARA前にて】

主な  
委員所感

- 子供たちが安心してのびのびと過ごしており、心が落ち着いた中で少しずつ学びに向うことができるのだと感じた。
- 幅広い年齢の子供たちが集まっており、自宅のようなアットホーム感があった。
- 子供たちが活発に意見を出し合い話し合う様子からは、学校などで傷つき回復するまでに3年もかかったということが想像できず、フリースクールでの居場所づくり、学びが子供本来の姿を取り戻すことにつながったのだと感じた。
- 子供たちは1か所のフリースクールに通うのではなく、他のところと併用する子供や、学校にも行っているが毎日は無理という子供もいる。不登校の世帯への給付も検討が必要な段階にきていると感じる。
- 不登校の原因がはっきりすることはほとんどなく、不登校の子供を持つ親も、精いっぱいやって、いろいろなところに相談に行くがどうにもならず、自責の念に苛まれてしまうことを感じた。
- 子供たちの居場所であると同時に、学校では教えることが難しいお金の話や性教育、また、ITの知識を使ってコミュニケーション能力を上げられる場であるなど、フリースクールは学校では補えない部分を担う重要な教育機関であると感じ

た。

- 多様な学びの場としての取組は先進的であり、学習の成果を発信していくことも必要ではないか。
- 空き家が散見されるような地域であったが、子供たちが集まっており、ほかの地域でも参考になる施設であると感じた。
- 運営ボランティアで成り立っており、千葉市からの補助金も年間家賃80万円の一部にしかならない。各世帯から月2万円程度の費用で通ってもらっているが、払えなくてあきらめる子供もいるし、施設としても予算の都合から開所日数を週3日と絞ってぎりぎりのところで運営している。  
また、不特定多数の子供たちが出入りするため、なかなか借りることのできる物件がない上に、駅前では家賃が払えず、現在借りているところは交通の便がかなり悪く、子供たちは全員保護者の送迎で通っているなどの事から、フリースクールに通うことができるのはほんの一部の子供でしかないと感じる。  
フリースクールのような、心の安定を保ちつつ学びに迎える環境が足りないため、それぞれの子供の状況に合う居場所や学びの場を用意していく必要があるのではないか。
- フリースクールを運営していく経済的な厳しさが語られたが、利用する保護者にとっても利用料や送迎負担は大きく、市として財政支援をさらに行っていく必要性を感じた。
- 地域など外部と繋がりを持ち、大学の教授や地元企業など様々な講師を呼んで教えていることは、学校では体験できないこともあり、よいアイデアである。
- 通っている子供の学校の校長先生は、年度の始めに授業や子供の様子を見に来ていただいた上で、出席認定をすともう足を運んでくることはないとのことだが、学期ごとに見学することも大事ではないか。フリースクールで子供がどのように変わってきているか見守ることが必要だと思う。
- 長野県では県からフリースクールへ、市から家庭に対して支援をするなどといった例を聞いたので、今後の参考にすべきと感じた。
- 環境の変化により急に不登校になったきっかけを考えることは、必要だと思う。

	<ul style="list-style-type: none"><li>○ それぞれに様々な経験をしてフリースクールに来る子たちにとって、安心・安全な場を保障することは、とても大切であると感じた。</li><li>○ 不登校の理由については様々あり、その回復には数年の覚悟が必要とのことから、今後も粘り強く取り組むべき課題であると感じた。</li><li>○ フリースクールへの直接支援ではなく、家庭支援としてのバウチャー発行などにより、利用者を通してフリースクールの経営の安定を図りつつ、より各施設が充実するようにフリースクールがお互いに連携できるような仕組みを作り、互いの施設に子供が自由に行き来できるような助成を行うべきではないかと思う。 真の教育の多様性は、子供たちがその多様な教育を本当に選択できる環境があってこそ、初めて真に享受できるのではないかと考える。</li><li>○ 多様な居場所や学びの場が求められている現在、公の教育ではないフリースクールの役割は大きく、受皿として維持していくための検討が必要ではないか。</li></ul>
--	---